



【読書】キャラクター「おっほん」

おっほんシート

札幌市立澄川小学校

読書センターとしての機能

■先生方によるシャッフル読み聞かせ



年に2回、学校の先生がいつもとは違うクラスに読み聞かせに行きます。読み聞かせは、担任ではない先生や校長先生、教頭先生も参加するので、子どもたちは毎回、「今回はどんな本を読んでもらえるかな。」「どの先生が来てくれるのかな。」と楽しみにしています。また、開放司書さん、ボランティアさんの御協力で素敵な展示がされ、休み時間に図書室で、本を手取る子が多くみられます。読書への関心を高めるきっかけの一つになっています。

■学級文庫の充実

各学級に、学級文庫を配置しています。朝読書の時間や、学習の隙間時間に活用して読んでいます。定期的に本を入れ替えることで、多様な本と出会えるようにしています。自分では購入しないジャンルの本もあるので、様々な本に触れて、読書を楽しむ機会をつくっています。

学習センターとしての機能

■各学年の学習に関連する本

国語「詩」「ことわざ」「慣用句」、社会「都道府県」「政治」「産業」、理科「月」「生物」「地層」、算数「単位」など、各教科の学習に関連する本を取り入れています。授業で学び、「もっと知りたい。」「これは、どうなっているのかな?」と感じたときに、すぐに立ち寄って、確かめられる場になればと考えています。



ときどき、入荷していない本のジャンルがあるので、子どもから問い合わせがあっても在庫がないときは、次回の購入リストに入れています。子どもが知りたいことが、すぐに見付けられる図書館を目指しています。

情報センターとしての機能

■子どもや先生方のニーズに合わせた選書

図書館に入れる新刊を選書する際は、子どもたちから「あったらいいな こんな本」というアンケートを取っています。新刊が入ると、嬉しそうに本を借りにくる児童の姿が見られます。

また、先生方各学年の学習内容や教科書の学習単元に合わせた本のリクエストを聞いています。子どもたちの学びと興味を支え、調べ学習や読書活動がより深まる図書室を目指しています。

■ブックトラックによる貸出

各学年に、図書館においてある本の中から、おすすめ本を 30 冊選び、2週間限定で貸し出しています。担任が中心となり、それぞれの学年の学習内容に関わる本や、人気のある本を中心に選定しています。自分からは図書館に足を運ばない子も、気軽に読むことができ、読書の幅が広がりました。